

RETAILER ACADEMY NEWS

Apr 2021 | Bentley Motors Japan



創業からの累計製造台数20万台を達成



ベントレー モーターズは、1919年の創業からの累計製造台数が200,000台を突破したと発表しました。記念すべき車両は中国のお客様に届けられるベンティガ ハイブリッドで、完成時には現存する最古のベントレーであるEXP2と並べられ、クルーで最も長いキャリアを持つスタッフたちから祝福を受けました。このうちの1人のスティーブ・ウォードは1977年に入社。1980年からは、車両分析エンジニアとして全モデルのテストに携わっています。ちなみにスティーブの父親もベントレーで働いていました。

200,000台目の車両は、2003年以来クルーで製造された155,582台目にあたります。つまり、101年の歴史の中で、直近の18年間にクルー工場で作られたベントレーが75%以上を占めていることを意味します。現在クルーでは1日あたり85台を製造していますが、これは20年前の1カ月の製造台数と同じです。

一方、創業した1919年から2002年までにベントレーが製造したラグジュアリーカーは、44,418台です。このうち38,933台がクルーで製造されました。この中には、ブローワー、R-Type コンチネンタル、ミューザンヌ、アルナージ、そしてアズールなど、各時代においてベントレーを象徴するモデルが含まれています。また、英国市場向けに製造された車両のうち、84%の車両が現在も走行可能な状態であるという信じられない記録もあります。

2003年以降のクルー工場での主な投資は、コンチネンタルGTの成功と密接に関連しています。記念すべき80,000台目は、今年1月に製造されました。また、フライングスパーの製造台数も40,000台を数え、世界で最も成功したラグジュアリー スポーツサルーンとなっています。

エイドリアン・ホールマーク会長兼CEOのコメント

200,000台目の車両の製造は、ベントレーが1919年の創業以来紡いできた並外れた歴史の通過点に過ぎません。2003年のコンチネンタルGTの導入は、私たちのブランドの変革の瞬間だったことを示しており、このモデルだけでも200,000台のうち80,000台を占めています。ベントレーのビジネスに新しいセグメントと、モダンなイメージの基盤という2つを生み出しました。2003年以降、進歩のペースは急加速しています。ベントレーがサステナブルなラグジュアリー モビリティの分野におけるグローバルリーダーになることを目指し、Beyond 100戦略を着実に実行し、次の変革期へと入っていきたくと考えています。



創業の地クリックルウッドでの3リッターの製造の様子



建設中のクルー工場（1937年）



1950年代のエンジン製造ライン



現在のクルー工場はVWの多額の投資で一気に近代化しました



2021年モデルで内外装を大幅刷新 ジャガー F-PACE

2021年2月18日、ジャガー・ランドローバー・ジャパンは、ジャガーブランドのハイエンド SUV モデルであるジャガー F-PACE の2021年モデルを導入。同日より受注を開始しました。

ジャガー F-PACE 2021年モデルのまとめ

2016年の導入以来初となる、内外装デザインの大幅刷新

マイルドハイブリッド機構を採用したディーゼルエンジンを新たにラインアップ

2021年モデルの発売を記念した特別仕様車として「LAUNCH EDITION」を30台限定で発売

エクステリアの特徴

- ・ボンネット、フロントグリル、前後のバンパーおよびLEDライトなどのデザインを刷新
- ・新デザインのアロイホイールを4種類追加
- ・ハイパフォーマンスグレードのF-PACE SVRでは、フロントバンパーの大型エアインテーク、ボンネットのエアベントなどのスポーティなスタイリングを採用。エアロダイナミクスの向上により、空気抵抗係数（Cd値）は従来比35%減となる0.36を実現



インテリアの特徴

- ・新デザインのスプリットリムステアリングホイールとドライブセレクトを採用。センターコンソールは収納スペースを拡大
- ・ハイパフォーマンスグレードのSVRでは、フロント/リアシートにSVRロゴを施し、パーフォレイテッドパターンを採用
- ・専用ステッチとSVRロゴを施したステアリングホイールと、モノグラムのディテールおよびSVRロゴを施した、新型のドライブセレクトを装備



パワートレインのまとめ

- ・エンジンラインアップは計3種類。
- ・2.0L 直列4気筒ディーゼルエンジン（D200）は、最高出力204ps（150kW）、最大トルク430Nmを発揮
- ・2.0L 直列4気筒ガソリンエンジン（P250）は、最高出力250ps（184kW）、最大トルク365Nmを発揮
- ・ハイパフォーマンスグレードのSVRに搭載される5.0L V型8気筒スーパーチャージドガソリンエンジン（P550）は、最高出力550ps（405kW）を発揮。最大トルクは従来比20Nmアップとなる700Nmに増強
- ・SVRの0-100km/h加速は、従来から0.3秒短縮となる4.0秒。最高速度は3km/hアップとなる286km/h



装備系のまとめ

- ・ブラインドスポットアシスト、クリアイグジットモニター、アダプティブクルーズコントロールなどのドライバー支援システムを標準装備
- ・最新インフォテインメント・システム「Pivi Pro」を標準装備
- ・ディスプレイは11.4インチのカーブドタッチスクリーンを採用

特別仕様車「LAUNCH EDITION」のまとめ

- ・ベースモデルは、F-PACE R-DYNAMIC HSE P250。30台の限定販売
- ・ボディカラーは「LAUNCH EDITION」専用色のボルトフィーノブルー。インテリアカラーはシエナタンを設定
- ・エクステリアでは、ブラックエクステリアパック、ピクセルLEDヘッドライト、22インチグロスブラックホイールなどを装備
- ・ヘッドアップディスプレイ、アクティビティキー、パークアシストなどの便利機能を搭載



価格

2.0L 直列4気筒ディーゼルエンジン搭載モデル	
F-PACE D200：	7,200,000円
F-PACE S D200：	7,600,000円
F-PACE R-DYNAMIC SE D200：	8,100,000円

2.0L 直列4気筒ガソリンエンジン搭載モデル	
F-PACE P250：	7,100,000円
F-PACE S P250：	7,500,000円
F-PACE R-DYNAMIC SE P250：	8,000,000円
F-PACE R-DYNAMIC HSE P250：	8,900,000円
F-PACE LAUNCH EDITION：	10,681,000円

5.0L V型8気筒スーパーチャージドガソリンエンジン搭載モデル	
F-PACE SVR：	13,500,000円

COMPETITOR INFORMATION



ニューモデル ジャガー E-PACE 2021年モデル

発表・発売日	2021年2月18日 受注開始
概要	<ul style="list-style-type: none">・ジャガー初となる最新アーキテクチャーの採用により、高剛性かつ静粛性、乗り心地を向上・導入以来初のフェイスリフトにより、内外装のデザインを大幅に刷新・2021年モデル発売記念となる特別仕様車「LAUNCH EDITION」を50台限定発売
車両価格(税込)	主なラインアップ E-PACE D200 (2.0L 直4ディーゼルエンジン/204ps,430Nm)：5,280,000円 E-PACE SE P200 (2.0L 直4ガソリンエンジン/200ps,320Nm)：5,840,000円 E-PACE LAUNCH EDITION (2.0L 直4ガソリンエンジン/249ps,365Nm)：8,548,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル アウディ Q5

発表・発売日	2021年3月8日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none">・フェイスリフトにより、フロントマスクやリア周りのデザインを一新・2.0L 直4ガソリンおよびディーゼルエンジンに12Vのマイルドハイブリッドシステム(MHEV)を搭載・最新のインフォテインメントシステム「MIB3」を初採用。センタースクリーンはタッチパネル式の10.1インチに進化
車両価格(税込)	Audi Q5 40 TDI quattro advanced：6,810,000円 Audi Q5 40 TDI quattro S line：7,390,000円 Audi Q5 45 TFSI quattro advanced：7,300,000円 Audi Q5 45 TFSI quattro S line：7,880,000円 Audi SQ5：9,150,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル ポルシェタイカン

発表・発売日	2021年1月28日 予約受注開始
概要	<ul style="list-style-type: none">・タイカンの4番目のバリエーションとして、後輪駆動のエントリーモデルを追加・総容量79.2kWhのバッテリー（シングルデッキ）が標準。オプションで総容量93.4kWhのバッテリー（2デッキ）が選択可能・標準仕様の最高出力は240kW(326ps)、オプションの2デッキバッテリー装備車は280kW（380ps）
車両価格(税込)	ポルシェタイカン：11,710,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル アウディ A5/S5 クーペ

発表・発売日	2021年1月13日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none">・フェイスリフトにより、内外装のデザインをアップデート・マイルドハイブリッドシステム搭載のディーゼルエンジンモデルをA5シリーズでは初めて設定。・最新のインフォテインメントシステム「MIB3」を初採用。センタースクリーンはタッチパネル式の10.1インチに進化
車両価格(税込)	主なラインアップ Audi A5 35 TDI advanced：6,160,000円 Audi A5 40 TDI quattro S line：6,920,000円 Audi A5 45 TFSI quattro S line：7,070,000円 Audi S5 Sportback：9,260,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル フェラーリ ポルトフィーノM

発表・発売日	2021年1月14日 発表
概要	<ul style="list-style-type: none">・リトラクタブルハードトップを備えたフェラーリ ポルトフィーノの進化モデル・3.8L V8直噴ツインターボエンジンは、従来比20psアップとなる最高出力620ps（456kW）、最大トルク760Nmを発揮・新開発の8速トランスミッションと5ポジションのマネッティーノを新採用
車両価格(税込)	フェラーリ ポルトフィーノM：27,370,000円
デリバリー開始時期	2021年秋



ニューモデル BMW M3セダン/M4クーペ

発表・発売日	2021年1月26日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none">・BMM M社が開発するハイパフォーマンスモデルを3シリーズ/4シリーズに追加・3.0L 直列6気筒ツインターボエンジンは、M4が480ps/550Nm、M3/M4 Competitionは510ps/650Nmを発揮・トランスミッションはM4が6MT、M3/M4 Competitionは8ATを搭載
車両価格(税込)	BMW M3 Competition：13,240,000円 BMW M3 Competition Track Package：14,360,000円 BMW M4：12,980,000円 BMW M4 Competition：13,480,000円 BMW M4 Competition Track Package：14,600,000円
デリバリー開始時期	—

TOPICS

22MYの主な特徴について

ベントレーの22MYの主な特徴は、以下のとおりです。追加されたモデルや装備・機能などについて、理解を深めてお客様にお勧めください。

コンチネンタルGT、GT コンバーチブル、フライングスパー

- ・オプションのボディカラーに新色「カンブリアングレー」を追加
- ・カーボンセラミックブレーキ（レッドまたはブラックキャリパー）をオプション設定（フライングスパーは除く）
- ・フェイスパネルに「エンジン ターン アルミニウム（写真右）」を追加（フライングスパーのリアドアには装着されません）
- ・ウッドパネルに「オープンポア ダーク パーウォルナット」「オープンポア クラウンカット ウォルナット」「オープンポア コア」を追加



ベンティガ

22MYから、インデント加工レザーのステアリングを設定します。これでステアリングはコンチネンタルシリーズと同様のものとなります。ステアリングの感触とデザインは、クラフツマンシップとドライビング体験の向上に寄与します。レザーのインデント加工は、ドライバーの手とステアリングの間のグリップ力を高め、車両の取り回しとパフォーマンスに対する自信を高めます。



オプションをリブランドして“By Mulliner”に

いくつかのオプションをMullinerのポートフォリオとして位置づけて「By Mulliner」にリブランドしました。ハイレベルなクラフツマンシップをより適切に反映します。By Mullinerには、デュアルヴェニア（写真下）、パーウォルナットおよびタモアッシュのシングルヴェニア、ラムウールラグ、ハンドクロスステッチが含まれます。

標準仕様の拡充

コンチネンタルGT V8とフライングスパー（W12およびV8）で、標準仕様を拡充しました。これにより、全モデルにシティ スペシフィケーションが標準装備されます。

コンチネンタルGT V8には、21インチ5トリブルスポークホイールが標準装備され、フライングスパー（W12およびV8）にはウェルカムランプとエアイオナイザーが標準装備されます。





コンチネンタル GT Speed の特徴

ベントレー モーターズはこのほど、コンチネンタル GT Speed およびコンチネンタル GT Speed コンバーチブルを発表しました。
日本での注文も受け付け始めていますので、今回はこのモデルの特徴を紹介します。

コンチネンタル GT Speed の専用装備

6.0リッター W12 TSI ツインターボエンジン
(Speed 専用チューニング：659PS、900Nm)

Speed 専用エクステリア

Speed 専用デザイン 22 インチホイールおよびスポーツ シル

電子制御リミテッド スリップ デフ (eLSD：ベントレー初採用)

Speed 専用カラースプリット (レザー&アルカンターラ)

電動 4WS (コンチネンタル GT 初採用)

ダークティント エンジン ターンド アルミニウム パネル(オプション)



スリリングなパフォーマンス

ベントレーが誇る 6.0 リッター W12 TSI ツインターボエンジンの最新バージョンを搭載。最高出力は既存の W12 エンジンから 4% アップの 659PS で、最大トルクは 900Nm です。最高速度は 335km/h、0-100km/h 加速は 3.6 秒 (コンバーチブルは 3.7 秒) です。ベントレーのグランドツアラーとして、最もパフォーマンス志向のモデルです。



最新テクノロジーを採用したシャーシ

eLSD

ベントレー初採用となったのが、リアに搭載された電子制御リミテッド スリップ デフ (eLSD) です。ドライブモードが「BENTLEY」と「COMFORT」の場合は、eLSD によりトラクションが向上。「SPORT」ではアクセルオン・オフ時にバランス良く介入することで、ターンインのレスポンスと直進性を向上させるチューニングが施されています (LSD の詳細は P6 を参照)。



電子制御 4WS

電子制御四輪操舵システム (4WS) が、コンチネンタル シリーズに初めて採用されました。フライングスターの 4WS と同様に、中低速域では逆位相に、高速域では同位相にステアします。コンチネンタル GT Speed の 4WS は、より積極的に作動し、回頭性を高めて俊敏性に優れたキビキビとした走りを実現します。



力強さを増した Speed 専用エクステリア

Speed 専用エクステリアにより、コンチネンタル GT の優雅さに力強さを加えたハイパフォーマンスを誇るこのモデルの実力を感じさせるルックスとなりました。エクステリアの Speed 専用装備は以下のとおりです。

■ ダークティント マトリックスグリル&ローパーバンパグリル

■ Speed 専用デザイン 22 インチホイール (ブライトシルバー、ダークティント、グロスブラック)

■ スポーツタイプのドアシル

■ フェンダーの「Speed」バッジ

■ イルミネーテッド トレッドプレート



※ スタイリングスベックのボディキットは標準装備ではありません。今後アクセサリとしての提供になりますので、ご注文に際してご注意ください。

ラグジュアリーかつスポーティな比類のないキャビン

コンチネンタル GT Speed のキャビンには、レザーとアルカンターラを使用して手作業で仕上げられたデュオトーンの専用カラースプリット (ステアリングも同様のカラーで統一) が採用されています。好みのインテリアに仕上げられるよう、レザーはメインカラーに 15 色、セカンダリーカラーに 11 色を設定。アルカンターラをレザーに置き換えるオプションも選択可能です。このほか、ダイヤモンド・イン・ダイヤモンド・キルティングは標準装備、ヘッドレストには「Speed」刺繍 (コントラストカラーまたはレザー同色) が入りますが、ウイングド B エンブレムの刺繍に変更することもできます。助手席側のフェイスパネルには、クロームの「Speed」バッジが装着されます。



ブライトリング for ベントレーの 新作発表 トゥールビヨンの限定モデル

ベントレー モーターズと高級時計メーカーのブライトリングはこのほど、20年近くに及ぶ長年のパートナーシップを記念し、25本のみ製造する限定モデル「プレミエ B21 クロノグラフ トゥールビヨン42 ベントレー リミテッド エディション」を発表しました。

この時計は、1940年代のブライトリングのプレミエシリーズを現代風に再解釈したもので、製造できるメーカーが極めて少ないトゥールビヨンを搭載したクロノグラフです。ケースは18Kレッドゴールド製で、2時と4時の位置に配置された2つの長方形クロノグラフ プッシャー、特徴あるアラビア数字の文字盤、ケース側面に刻まれたエンブレプ、トゥールビヨンのオープンケース、サファイアガラスのオープンケースバック、ビンテージ風の針など、エレガントなディテールが随所に見られます。ストラップはゴールドブラウンのアリゲーターレザーで、COSC 認証を受けたマニファクチュール キャリパー B21で駆動します。パワーリザーブは55時間で、100m防水です。

ベントレー モーターズのエイドリアン・ホールマーク会長兼 CEO は、「この印象的な時計は、パイオニア精神、エキスパートのクラフツマン



シップ、私たちが共同して取り組む卓越した技術を体現したものです」などとコメント。ブライトリングのジョージ・カーンCEOは、「私たちは、品質やパフォーマンス、デザインの卓越性というブランドの共通の価値観を持っており、その価値観を象徴するこのエレガントなシンボルを誇りに思います」などとコメントしています。



MOTOR SPORT

パイクスピーク三冠を目指す コンチネンタルGT3を発表



ベントレー モーターズはこのほど、今年6月27日に開催が予定されている、パイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライムのタイムアタック1に出場することを発表しました。2018年には市販SUV部門で、2019年には市販車部門でそれぞれ新記録を樹立したベントレーですが、今回はコンチネンタルGT3レースカーを投入し、タイムアタック1でも新記録を樹立してパイクスピーク三冠を目指します。

今年の挑戦は、カスタマーチームのチームFASTRと共同で開発した、再生可能燃料を使用するコンチネンタルGT3を、ベントレーの過去2度の新記録樹立を達成したリース・ミレンがドライブ。スタート地点とゴール地点で大きな標高差があるパイクスピークのコースに合わせ、特にエアロダイナミクスとエンジンに関しては念入りに準備が進められています。使用されるバイオ燃料は、空気の密度が低い高地でもしっかりと馬力を発揮することができるほか、ベントレー史上最大のリアウイングが取り付けられています。現在はベントレーとFASTRのテクニカルチームが、ベントレーのワークスチームであるチーム・Mスポーツのスペシャリストと協力し、K-PAXレーシングの援助を受けてパイクスピークに挑みます。

Beyond 100 戦略では電気自動車への移行が大きな柱の1つですが、この再生可能燃料の研究も同戦略の中で重要な要素です。バイオ燃料やeフューエルの可能性を探る長期的なプログラムの第一歩が、今回のパイクスピークでの挑戦と位置づけられています。

三冠を目指すコンチネンタルGT3とリース・ミレンに、大きな声援をお送りください！

COLLECTION

日常を豊かに彩る新アイテムを 積極的にご紹介ください



ベントレー コレクションのラインアップには、車両とクラフツマンシップ、そしてデザインからインスピレーションを得て、最高品質の素材を用いて製造されたライフスタイルを彩るアクセサリが揃っています。そしてこの春、さまざまなエキサイティングな新アイテムがコレクションに加わりました。

例えば、レザーバッグの「ヘリテージ ウイークエンダー」と「ヘリテージ バックパック」には、ベルーガにグリーン&ホワイトのストライプを合わせた新色が登場しました。ノートPCやタブレット端末の収納にぴったりの「ヘリテージ テックケース」や、USBタイプC、ライトニング、アンドロイドの3種類に対応可能な充電ケーブルといった、ガジェット好きな方に訴求できる製品も揃っています。また、繰り返し使用できるカップ類や保温・保冷水筒、レザー製のカードケース、フライングBマスコットをモチーフとしたカフリンクやキーリングなど、日常生活を豊かに彩るアイテムも豊富に取り揃えています。

リテーラーの皆様にも、あらためてこれらのスタイリッシュな製品に対する理解を深めていただき、積極的にお客様にご紹介くださいますようお願いいたします。

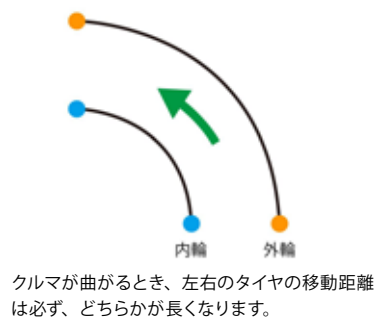
デファレンシャルとLSDの働き

3月に発表された新しい「コンチネンタルGTスピード」には、ベントレー初となる「エレクトリック・リア・デファレンシャル（eLSD）」が採用されています。今回はデファレンシャルとLSD（リミテッド・スリップ・デファレンシャル）の働きを紹介します。



デファレンシャルは、なぜ必要なのか？

クルマを駆動する車軸には、必ずデファレンシャル・ギア（Differential gear：差動歯車装置）が使われています。これは車軸でつながった左右のタイヤの回転差を許容させるもの。クルマはコーナーを曲がる時、左右のタイヤの移動距離が異なるため、どうしても左右輪の回転差が生じます。そのため、デファレンシャル・ギアを用いないと、コーナーのたびに、どちらかの車輪をひきずることになり、スムーズに曲がりません。「ディファレンシャル」や「デフ」、もしくは「オープン・デフ」などと呼ばれることもあります。



機械式LSDのメリットとデメリット

メリット	デメリット
○ 片輪がぬかるみにハマっても駆動力を失いません。	✕ コーナーを曲がる時にギクシャクします。
○ コーナーリングからの立ち上がりに強い駆動力を保持できます。	✕ 機械式LSDは作動時に音や振動が生じます。
○ コーナーに向かうブレーキ時にクルマが安定します。	✕ 装置を追加するためコスト高になります。

デフの動きを制限するLSD

デファレンシャルには弱点もあります。左右どちらかのタイヤがぬかるみなどで滑ると、デファレンシャルはエンジンから送られてくる駆動力をすべて空転側に送ってしまい、グリップしているタイヤの駆動力がなくなります。つまり、駆動力がすべて空転して、前進できなくなります。きついコーナーでも内側のタイヤが空転しやすく、そこに駆動力が逃げてしまいます。そこで、デファレンシャルがスリップすることを制限する装置、LSD（リミテッド・スリップ・デフ）が考案されました。LSDがあれば駆動力が抜けないため、ぬかるみにハマっても脱出しやすくなり、ブレーキをかけたときのクルマの安定度も高まります。そのためSUVやスポーツカーの多くにLSDが採用されています。



デファレンシャルがスリップすることを制限する装置がLSDとなります。

LSDの仕事をブレーキで代用

旧来からのLSDはギアを内蔵する機械式でした。しかし、近年はLSDを使わずに、同じ効果を発揮させる方法も生まれています。それがブレーキLSDです。左右のタイヤに個別にブレーキをかけて、左右輪のタイヤの回転差を解消します。左右の回転差がなければ、デファレンシャルは左右輪に同じだけの駆動力を配分するため、LSDと同じ効果になります。横滑り防止装置（ESC）やトラクションコントロールが行うブレーキ制御の応用となるため、新たな装置を追加する必要がありません。また、作動させなければスムーズに曲がることも可能。快適さと高い機能性を追加装置なしで実現させる、スマートな手法となります。



左右のタイヤに個別にブレーキをかけてLSD効果を生む、ブレーキLSD。

左右の個別ブレーキで曲がりやすく

左右のブレーキを自在に使うことで、さまざまな効果が生まれました。それが横滑り防止（ESC）やトラクションコントロール、ブレーキLSDです。また、最新の機能として、コーナーを曲がりやすくするトルクベクタリングも使われています。コーナーリングなどで、曲がりたい方向の内側のタイヤにブレーキを軽くかけることで、曲がる力を生み出します。「トルクベクタリング・パイ・ブレーキ」などとも呼ばれます。



左右輪に個別にブレーキをかけることで、曲がる力を生み出すトルクベクタリング。

eLSDの働きとメリット

コンチネンタルGTスピードではエレクトロニック・リア・デファレンシャル（eLSD）が採用されています。これは電子制御などによって、左右輪のトルク配分を変化させるもの。さらにコンチネンタルGTスピードでは、トラクションコントロールやアクティブシャシーシステムと連携するように、eLSDが調整されており、コーナーリングの安定や加速時の駆動力（トラクション）などが強化されています。



eLSDは左右輪の駆動力（トラクション）を変化させてLSD効果を実現します。